

平成26年度第2回福岡市美術館協議会 会議録

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 平成27年3月17日 (火) 14:00~16:00 |
| 場 所 | 福岡アジア美術館 会議室 |
| 出席者 | 協議会委員：後藤会長外 計13名 福岡市美術館：錦織館長外 計8名 福岡アジア美術館：村上館長外 計8名 |
| 議題 | (1)福岡市美術館平成27年度事業計画について (2)福岡アジア美術館平成27年度事業計画について (3)その他 |

1 開会

2 館長挨拶 (内容省略)

村上福岡アジア美術館館長挨拶

3 議題

(1) 福岡市美術館平成27年度事業計画について

事務局より報告

(2) 福岡アジア美術館平成27年度事業計画について

事務局より報告

会長： 今報告があった福岡市美術館，福岡アジア美術館の27年度事業計画について，質疑応答を始める。

委員： 福岡アジア美術館の所蔵品の長期貸出について，シンガポール国立ギャラリーは2015年10月開館予定だが，なぜ貸出期間は2015年5月からなのか。

事務局： 通常は展覧会が始まる1か月前前に貸し出すが，理由は2つある。1つは，シンガポールと日本で仕事の進め方が異なり，シンガポールの場合は展覧会の設営に非常に時間を要するので，一般的に1か月以上前から貸し借りをを行っているため。それに加え，建国50周年を記念するナショナルギャラリーのオープンということで，8月の初めごろに首相などVIPの特別視察会がされるため。

委員： 先週シンガポール国立ギャラリーを訪れた際は，まだ展示室はできていなかったもので，展示する時点で環境等がきちんと整っているかどうか注意していただきたい。

会長： 貸し出してから開館までの間は，主に収蔵庫に眠っている期間が長いのか。

事務局： 貸し出す具体的な日程についてはこれから決めていく。できるだけぎりぎりに出したい。また，先程の環境の問題については，シンガポール国立ギャラリーにはコンサバーターの方がおり，1週間ごとに温湿度等の報告をされているので，福岡アジア美術館にも同様の報告をしていただくよう

お願いする予定。

会長： 気候風土への順応もあるので、その辺りを留意していただきたい。

委員： 27年度は音楽関係の展覧会が増えて良いと思う。今後も増やしてほしい。

会長： 福岡市美術館のアンコールワット展のコレクションは日本初公開か。

事務局： 個人コレクションなので、このような形でまとまって公開するのは初めてのものが多いと思われる。

会長： モネ展だが、去年、マルモッタンでモネの「印象、日の出」だけの展覧会が行われた。その成果が福岡市美術館の展覧会に出てくるのではないかと思われる。そういう意味では、非常に話題性のある展覧会だと思う。

事務局： モネ展は、東京都美術館、福岡市美術館、京都市美術館の3会場で行われるが、「印象、日の出」に関しては、3会場それぞれ時期を限って展示し、展示していない期間は一旦フランスに返すという特別扱いをする。ただし、公開日数を1日でも増やしたいので、フランスからの空港を成田空港ではなく、関西空港にさせていただき、福岡市美術館へ来る時間を短縮し、1日でも早く公開する。また、公開が始まってからは、最終日まで休館日も開館する。「印象、日の出」は約25年前に東京に来たが、九州では今回が初。モネ展では特別展示室Bも使用し、特別感のある展示をしていきたい。

会長： 他の委員の方々に質問のある方はどうぞ。

委員： 福岡市美術館の浮世絵展の春画展示室について、子連れの親だけが入り、子どもは入ってはいけないとなった場合に、子どもたちにどのように対応するのか。

事務局： 大英博物館で行われた時は入場制限をしていたが、保護者の許可があれば子どもも入れた。しかし、福岡市美術館では福岡県の青少年保護条例に則ってやらなければならないので、そのようなことはできない。福岡市美術館では、子連れの方には中に入るときに注意をして対応していただく。カタログについても、本編と春画編の2冊にわけ、18歳未満の方への販売を制限する。

会長： 具体的にはどのような対応をとるのか。

事務局： これから考えていく。

会長： いろんな問題がでてきそうである。

委員： 迷子や連れ去りなどの事件事故がないよう気を付けていただきたい。

事務局： 十分な対応ができるよう検討する。

事務局： 20年前に福岡市美術館で歌麿展を行った際に一部春画を公開した時は、この協議会の委員の方々に現物を見ていただき、協議会の許可の下、公開したことがある。

事務局： 今回は市長や警察に了解を得た。

会長： 約25年前に北九州市立美術館でアメリカのリアリズム展をやった際にも問題になり、1点だけ別室で展示を行い、許可を得てその部屋へ行くという形をとった。それ故、市民から色々な問題が出

てきてシンポジウムを行った。福岡市美術館でも、社会問題化する可能性があるので、対策等を十分検討していただきたい。

委員： 問題に対するはっきりとした対応を考えていただきたい。

会長： 違う面でこの展覧会は話題になるのではないかと思う。

事務局： 準備段階でもそういった面には色々と神経を使ってきた。法的な面も対応してきたし、市長からも内諾を得た。Q&Aも現段階でそれなりに準備している。それでも様々な質問・非難があると思うので、対応できるよう今後準備していく。

会長： ぜひ果敢にこの問題に取り組んでいただきたい。

事務局： 春画は江戸時代の人のユーモアがメインになっているので、そこをわかっていただきたい。展覧会開催まで時間はまだあるので、今日いただいたご意見を踏まえて検討していきたい。

会長： 他にご意見のある方はどうぞ。

委員： 福岡アジア美術館の現代美術は常に最先端の展覧会をしていかなければならないが、そういった意味で「日韓近代美術家のまなざし」展は非常に良い展覧会だと思う。

事務局： 成功するよう頑張りたい。広報が追い付かないことがあるので、工夫をしてより多くの方に見ていただけるよう努力したい。

会長： 入館者数の多い展覧会でなくとも見ている人はきちんと見ているので、今後も継続して努力していただきたい。福岡アジア美術館の展覧会は、福岡市美術館とは違うアンテナの張り方をしていて、この路線を強化して行ってほしい。

副会長： 福岡アジア美術館の日韓の展覧会に期待している。

会長： 他の委員の方々に質問のある方はどうぞ。

委員： 余裕があれば、美術のみならず文学関係の展覧会もしてほしい。

委員： 福岡市美術館の九州派展とはどのような展示か。

事務局： 九州派の重要な作品の多くは当館に收藏されており、ここ数年、度々常設展で展示してきたが、当館が間もなく閉館に入るということで、もう一度検証しておきたいと思い企画したもの。展示方法については現在検討中。これまではグループの年代順で展示していた。

委員： 60年代が現在非常に注目されており、地域性の問題だけでなく、その時代との関係性が展示に盛り込まれていると発信力があると思われる。

会長： 九州派は蓄積があるので、ぜひ協力し合いながら話題性のある良い展覧会にしていいただきたい。個人的意見だが、協議会用の資料の展覧会名の横にかっこ書きで担当学芸員の名前を書いていただきたい。

委員： 浮世絵展のような子どもたちを連れて来られない企画については、可能であれば、子どもたちの夏休み期間中等ではなく、学校に行っている期間にやっていただきたい。

委員： 美術におけるセクシャリティを日頃から市民に教育しておく必要があると思う。また、九州派展の

ように、同時代の地域地方の美術作家たちの研究を蓄積して、常設展で活かしてほしい。

委員：九州派の時代には、他にも同じような作家はいる。九州派だけを取り上げるのではなく、全体を見ていただきたい。

事務局：来年度の福岡市美術展は50周年で、特別に何か大きなことができるわけではないが、その時には皆様の知恵を貸していただきたい。

会長：福岡市美術展の主催は福岡市美術館か。

事務局：主催は市、市教育委員会と市美術展運営委員会。美術館は、会場の提供や作品の受付・返却、図録の制作等、運営委員会の事務局を行っている。

(3) その他

事務局より報告（福岡市美術館リニューアル事業について）

委員：読書室はどうか。

事務局：読書室という名称はなくなるが、2階に情報コーナーを設け、ここに開架図書を持っていく。情報コーナーでは、端末を用いての当館収蔵資料のデータや開架図書をここで閲覧していただく。ただし、現在の読書室よりも開架図書の分量が少なくなり、また、専門的なものを配置するようなスペースがなくなるため、事務棟の研究図書室を大きく拡充して、一般の方が閲覧できるようにしたい。

委員：欧米の美術館と日本の美術館との大きな差は、一般市民が資料を調査できる体制だと思う。今以上に市民に開放された、誰もが使えるような体制にしていきたい。

事務局：現在、ボランティアの方々が整理している、様々な作家からのDMや新聞の切り抜き等公開できていない情報がまだまだある。また、当館の所蔵品の詳しいデータを簡易に検索できる形では公開できていない。このような、所蔵品のデータベースはもちろん、今まで公開できていない美術情報を一般の市民が気軽に利用できるような環境として、情報コーナーを作ろうと思う。

会長：他にご意見等ある方はどうぞ。

委員：美術館の永続性など一番期待されるものと、リニューアル方式等との関係性について教えてほしい。

事務局：指定管理者制度と違い、今回のPFIでは、展覧会や教育普及等の美術館の根幹となる事業については、事業期間中も今まで通り学芸員を中心に市が直接やっていくので、この事業に関わらず、美術館の永続性は今後も変わらない。

会長：リニューアルによって外観は変わるのか。

事務局：新しいアプローチについては空間が変わるが、建築意匠を継承するので、雰囲気が変わることはない。

- 会長： カフェのアプローチを車いすの人が行きやすくするということは、外観を一部変えるということではないのか。
- 事務局： 新しい入口はできるが、建築そのものに関してはほとんど変わらない。
- 事務局： ちょうど2年前、前川國男設計の東京都美術館も改修し、増築されたが、外観はほとんどそのまま残している。東京都美術館も前川國男の建築意匠を残す考えで改修した。福岡市美術館も、前川設計の良さを残して、将来、福岡を代表する建築物として残していきたいという考えで取り組んでいるので、外観はほとんど変わらない。
- 会長： 他に委員の方でご意見ご要望のある方はどうぞ。
- 委員： 若いアーティストの育成や発表の場は構成されているのか。
- 事務局： 今回のリニューアルの中で、今まで教養講座室として使用していた部屋を多目的スタジオに改修する。位置は新しいアプローチから入ると右手にあり、ガラス張りになっていて、ある時は見せることも出来る様な位置に作る予定。多目的スタジオの運用の仕方を今後練っていくが、今ご指摘いただいた若手作家の発表の場や、市民を巻き込んだ交流事業にも使っていけたらと思う。
- 会長： 今回のリニューアルの主体はハード面だが、それと同時に若手を輩出するようなソフト面もしっかり構築していただきたい。
- 委員： リニューアル後の魅力あるミュージアムショップを実現するためにどういったことをするのか。
- 事務局： リニューアル後もミュージアムショップは独立採算制をとるが、ミュージアムショップについてはかなり水準を要求しており、オリジナルグッズの開発そのものを義務付けている。当館ではオリジナルグッズの開発を中心にミュージアムショップの充実を図っていきたい。
- 委員： 他の成功例を参考にさせていただきたい。
- 委員： 現在、福岡市美術館や博物館では市の学芸員が考えたグッズを販売していると聞いた。このような取り組みは今後も続けていただきたい。
- 事務局： 当館でも3名のグッズ担当者が様々な協議を重ねてアイデアを出している。今後は、官民対話等で積極的に持っている情報や成功例を話していきたい。
- 委員： ミュージアムショップのクオリティがミュージアムのクオリティに関わってくる。ミュージアムショップのクオリティを上げるために、民間とどういう風に情報交換し、良い関係を構築していくかが大きな課題になると思う。
- 会長： リニューアル事業は長い期間となるので、今後も意見交換等していきたい。

4 館長挨拶 (内容省略)

錦織福岡美術館館長挨拶

5 閉会